

3. 御嶽山火山の監視・観測体制

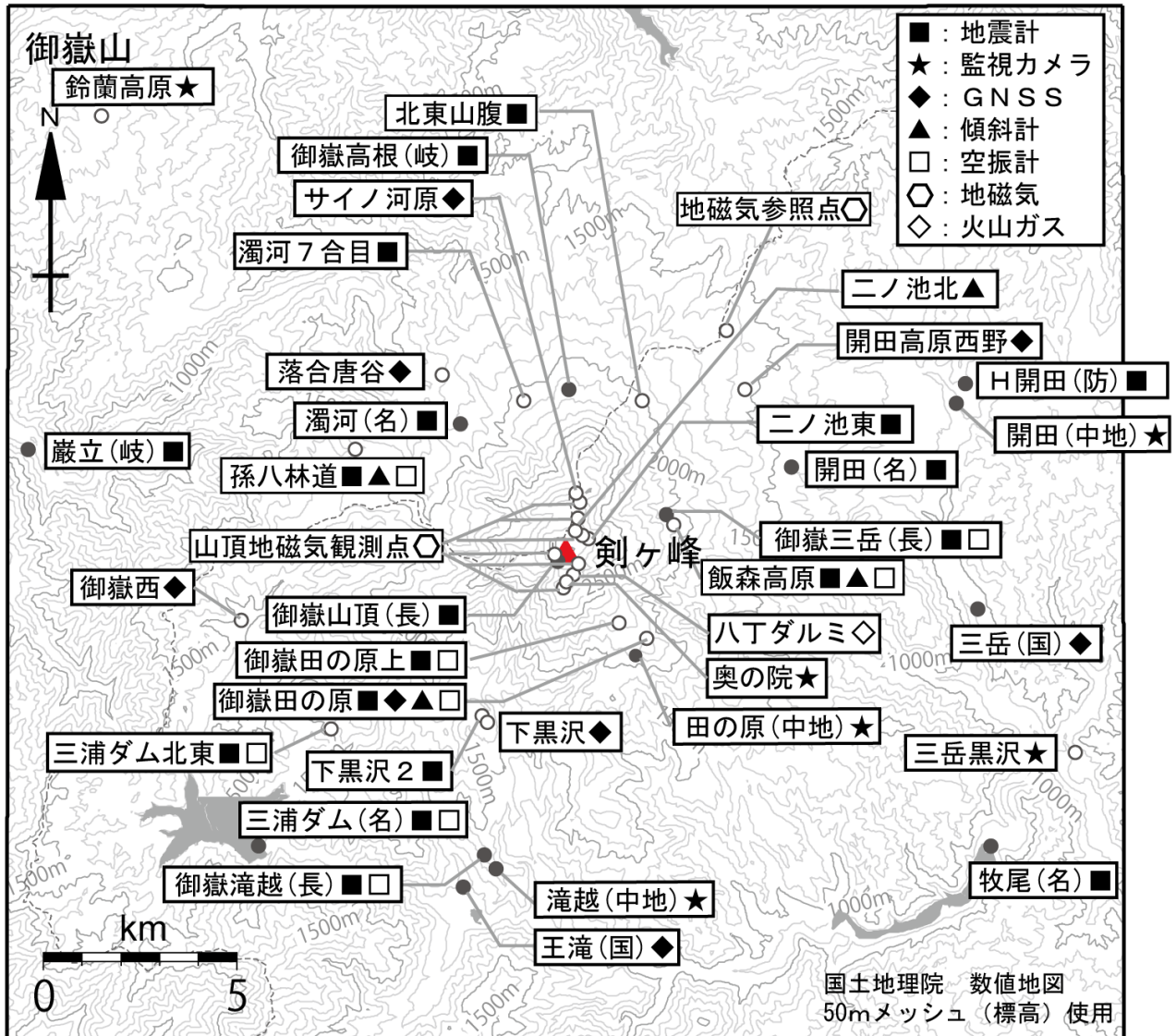
御嶽山とその周辺には、噴火の前兆を検知し噴火警報等を的確に発表するために、気象庁が地震計、傾斜計、空振計、GNSS*、監視カメラ等の火山観測施設を整備し、火山活動を24時間体制で常時監視・観測している。

気象庁の他にも大学等研究機関、国土交通省中部地方整備局、国土地理院等により各種の観測施設が設置されており、火山噴火に伴う土砂災害の監視、調査・研究、地殻変動の観測等を行っているほか、一部のデータは気象庁の火山監視に活用されている。その状況を下記【図3】に示す。(平成31年2月13日現在)

*: GNSS (Global Navigation Satellite System) とはGPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称。

<御嶽山の各機関観測点配置図>

【図3】



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国)：国土地理院、(中地)：中部地方整備局、(防)：防災科学技術研究所、(名)：名古屋大学、(長)：長野県、(岐)：岐阜県

(気象庁ホームページより)